

パンジー ビンゴ[®]/パノラ[®]・シリーズ

ともにアウトドア・パフォーマンスの高い秋咲パンジー。

■ 中輪咲のパノラ[®]は、秋から春まで長い間花壇で咲き続け、またビオラとパンジーの優れた特性を受け継いだ造園向けのシリーズです。花数が多く、早生のシリーズです。パノラ[®]の株は分枝がよく、花壇定植後は温度がいくぶん高くても徒長せず、15-20cmの丈が維持されます。

■ ビンゴ[®]は、大輪早生のパンジーで、生産サイドやガーデンナーからも好まれているシリーズです。コンパクトな株に、花卉が上向きに上がってくるので、出荷時花壇に植え込んだ後も、圧倒的な花数の多さを感じる品種です。秋出荷用には、選択価値の高いシリーズです。

本品種の学名: *Viola x wittrockiana*

種子粒数: 700-1,100 粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイのサイズ

406 穴のトレイを推奨。育苗期間は約 5 日。

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いましょう。土壌 pH は 5.4-5.8 が適正です。初期養分量の高いプラグミックス培地は避けましょう。初期の段階で苗が伸びないようにリンの値はできるだけ低く抑えます。

播種

粗めのパーミキュライト等で、深すぎず浅すぎない深さで覆土します。最良の発芽条件を作るため、しっかり覆土して種子を高湿度の中に維持します。ベンチで発芽させる場合は 3, 4 日です。発芽チャンバーを用いた方が高い歩留が期待できます。

最適な発芽パフォーマンスを実現するため、培地の水分をなるべく高めに維持します。これは表面がぬれて光るくらいを目安にして、トレイの底から流出しない程度、つまり指先で少し表面を触れて満遍なく浸透している状態が確認できれば適量です。苗の徒長を防ぐため、育苗温度が 21 を超えないよう注意しましょう。

ステージ 1:	3 - 4 日
ステージ 2:	10 日
ステージ 3:	14 日
ステージ 4:	7 日

温度

発芽温度:	20	
ステージ 2:	昼間 18-21	夜間 15
ステージ 3:	昼間 18	夜間 15
ステージ 4:	昼間 15	夜間 13

かん水

ステージ 3 に入ったら、苗が根付いたことを確認して培地の水分を減らしましょう。ステージ 4 では、いわゆるウェット・ドライを上手く調整して、苗の葉色を健康に保ち、同時に苗の軟化を回避します。

光条件

発芽期においては、電照等による補光は不要です。最高 30,000 (3,000 f.c) ルクスを上限にして光条件を設定すると、質の高い苗に仕上げる事が可能です。

湿度

相対湿度 95-97% を維持します。

肥料

施肥はステージ 3 から開始します。週 2 回、14-0-14 と 20-10-20 の肥料を交互に 50ppm(N) の倍率で pH バランスを保ちながら与え、さらにカルシウムを適宜投与します。1 週経過後に窒素濃度を 100ppm にまで上げて、この肥料設計をポット上げ前まで続けます。

EC 値^{*} と pH は、ステージ 2 から 4 まで 0.5-0.75 mmhos/cm と、5.4-5.8 の範囲を維持します。EC 値^{*} と pH の最適値は 1.0 と 5.6-5.8 です。もしステージ 4 において pH の値が 6 を超えるような場合は、水 1 リットルに硫化鉄 1.2 グラムを溶かした水溶液を供与します。また葉焼けしないように、葉の部分をよく水で洗い流します。6 以上の pH になると、他にもホウ素欠乏を起こしたり、細菌感染による根腐れ病等を誘発したりする可能性があるため、十分注意しましょう。

矮化剤

プラグの段階では、A-レストの 10ppm の葉面散布を推奨しています。最初の本葉が完全に展開した時点で (だいたい 3 週齢くらい)、矮化剤を与えます。通常はこの 1 回で十分です。また生育が早いようであれば、3 週目よりも数日早く与えることも可能です。

Note: ポット上げ適期を逸しないように注意しましょう。逸するとプラグの段階で花芽が上がってきます。このような株は当然、出荷鉢では株張りせず、商品性もまったく期待できません。

ポット上げから出荷まで コンテナサイズ

カットバック、10cm 前後のポット。

培 地

パンジーは、培地に含まれる元肥の内容がその後の生育に影響します。養分量が低すぎると株が十分に肥りきらないうちに花が上がってしまい、商品性が低くなってしまいます。必要な微量元素の含有されている、中庸の養分量を備えた培地を用いることで、葉と株のバランスが整った草姿に仕上がります。

温 度

施設栽培では、昼間温度を 15、夜間温度を 10-13 に設定しましょう。

光 条 件

電照等による補光は不要です。

肥 料

施設栽培においては、移植後 1 週してから週 1 度 150ppm の倍率で肥料を与えます。露地管理の場合は、もう少し頻繁に施肥します。移植後は一貫して、EC 値^{*}を 1.5、土壌 pH を 5.6-5.8 に維持します。肥料は pH の値を保つため、20-10-20 のようにやや酸性に傾くものと、15-5-15 のようなベーシックな種類とを交互に与えましょう。もし培地の pH が 6.0 を超えるような場合は、葉焼けしないように水 1 リットルに硫化鉄 1.2 グラムを溶かした水溶液を与え、さらに水で葉の部分をよく洗い流します。

矮 化 剤

パンジーの矮化剤使用に関しては、夜間と昼間の温度条件や生産場所、また作型に大きく影響します。昼間/夜間の温度が最適範囲で、つまり温度がさほど高くないのであれば(昼:16-20、夜:11-15)、移植後 1 週で 10-20ppm の A-レストを葉面に一度、その後 7-10 日において同倍率でさらに 1、2 回行えば十分な効果が期待できます。(昼間/夜間ともに)気温の高い条件化では B-ナイン、5,000ppm とサイコセル 1,000ppm、あるいは B-ナイン、5,000ppm と A-レスト、10ppm のどちらかのタンクミックスの使用で効果があります。どちらも葉面散布で、やはり移植後 1 週から開始して、その後 7-10 日において同倍率でさらに 1、2 回行うことで効果があります。実際、パンジーでは温度が最も重要な生長-抑制要因です。たとえば春出しのパンジーを温度の低い条件で生産するのであれば、矮化剤は不要あるいは最小限の使用で生産が可能です。

品質のよいパンジーを生産するには、(風雨の懸念さえなければ)ポット上げ後 1 週たったら露地や無蓋ハウスで作ることもひとつの方法です。このように、戸外で生産する場合の理想的な温度は、最初の 2、3 週は中間温度 15-21、夜間温度 11-15 の範囲です。パンジーは低温に強い植物なので、夜の気温が 5 まで下がってもとくに大きな問題はありません。

栽培のスケジュール

播種からポット上げ(406 穴トレイ使用):	5 週
ポット上げから出荷(カットバック):	4-9 週
(季節によって大きく異なります)	
播種から出荷(トータル期間):	9-14 週

予想される一般的な障害について

害虫: プラグ生産ステージでは、ファンガスナッツ、シヨーフライなどをしっかり殺虫駆除する必要があります。また、移植後はアブラムシやスリップス、ハダニ、ホワイトフライが害虫として問題になります。

病気: 適正な管理条件下では特定の病例は報告されていません立ち枯れや黒斑病、葉上の種々の斑点病、ボトリティスなどが出やすい病気です。

*: EC 値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのビート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

TMと®は、アメリカ合衆国におけるボール・ホーティカルチャー・カンパニーの登録商標であり、国際登録制度に基づき、当該国以外においても出願および登録されている場合があります。

© 2003 Ball Horticultural Company
Originally released as PAS03010 in USA in 2003, and under admission translated into Japanese in 2004.
Printed In Japan